

2026年3月期第2四半期（中間期）決算説明会

カーリットグループ 各事業の状況と戦略について



株式会社カーリット
CODE : 4275

- 2026年3月期第2四半期（中間期）決算概要
- 2026年3月期 通期見通し

財務部担当 取締役兼執行役員 岡本 英夫

- カーリットグループ 各事業の状況と戦略について

代表取締役兼社長執行役員 金子 洋文

2026年3月期第2四半期（中間期）決算概要

中間期 決算概要 <連結経営成績>

| (百万円) | 2025年3月期中間期 実 繢 | 2026年3月期中間期 実 繢 | 増 減 | 増減率 |
|---------------------|--------------------|--------------------|------|--------|
| 売上高 | 18,045 | 17,763 | ▲281 | ▲1.6% |
| 売上原価 | 13,668 | 13,304 | ▲363 | ▲2.7% |
| 販売費および一般管理費 | 3,182 | 2,954 | ▲227 | ▲7.2% |
| 営業利益 | 1,194 | 1,504 | +309 | +25.9% |
| 経常利益 | 1,382 | 1,657 | +275 | +19.9% |
| 純利益 | 951 | 1,149 | +198 | +20.8% |
| 期末配当予想 (円/株) | 36 | 38 | +2 | +5.6% |

特別利益 投資有価証券売却益 285百万円
特別損失 減損損失 121百万円

中間期 決算概要 <連結営業利益 増減内訳>

(百万円)

1,600

2025年3月期中間期実績 対 2026年3月期中間期実績

1,400

1,200

1,000

800

600

400

200

0

11.9
億円

15.0
億円

売上構成変化・
販売価格の適正化 等
+ 82百万円

経費減少 等
+ 147百万円

開発品の試験販売 等
+ 80百万円

+ 3 億円

2025/3上期実績

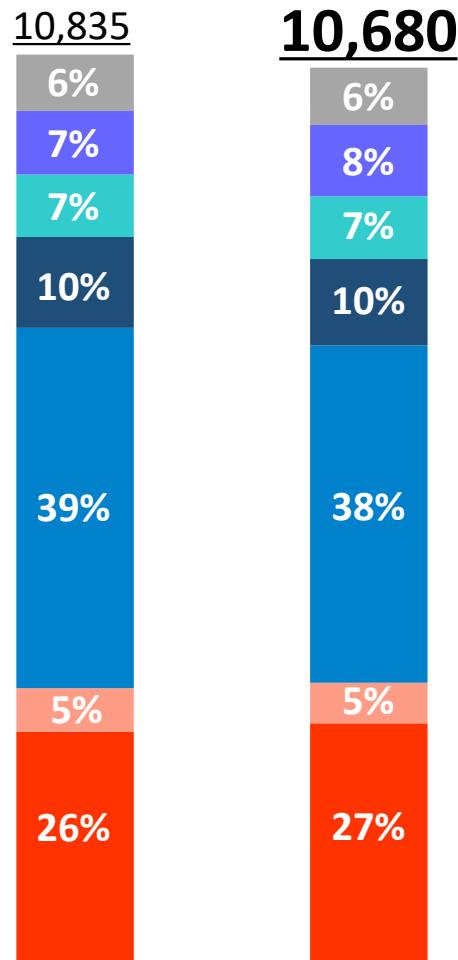
2026/3上期実績

中間期 決算概要 <セグメント別実績>

| (百万円) | 売 上 高 | | 増 減 額 | 営 業 利 益 | | 増 減 額 |
|-----------|-----------|---------------|-------|-----------|--------------|-------|
| | 前中間連結会計期間 | 当中間連結会計期間 | | 前中間連結会計期間 | 当中間連結会計期間 | |
| 化学品 | 10,835 | 10,680 | ▲155 | 664 | 865 | +201 |
| ボトリング | 2,272 | 2,125 | ▲147 | 6 | ▲73 | ▲79 |
| 金属加工 | 3,603 | 3,770 | +166 | 219 | 373 | +154 |
| エンジニアリングS | 1,908 | 2,556 | +648 | 285 | 459 | +173 |
| 報告事業部門計 | 18,621 | 19,132 | +511 | 1,176 | 1,626 | +449 |
| 連結合計 | 18,045 | 17,763 | ▲281 | 1,194 | 1,504 | +309 |

決算概要 <化学品セグメント>

売上高（百万円）



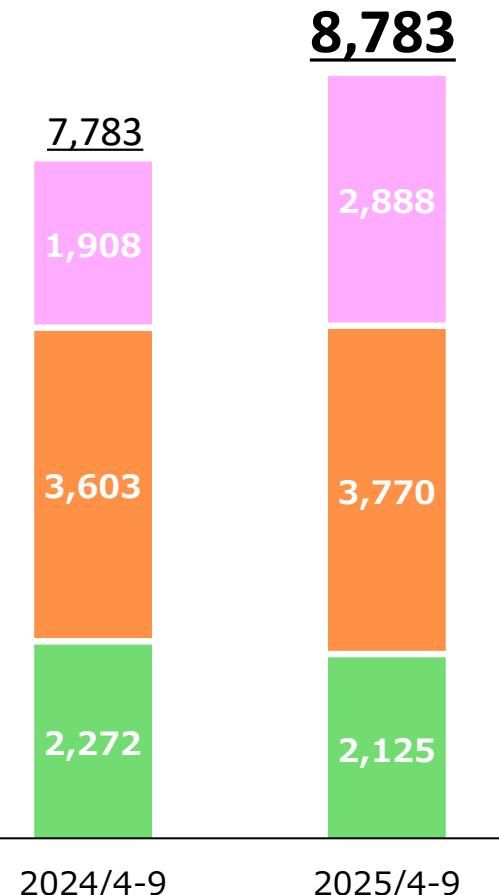
| 分野（サブセグメント） | 売上高 増減率 (前年同期比) | サブセグメント別の状況 |
|--------------|--------------------|---|
| ■ 化薬分野 | + 4% | 産業用爆薬：需要減少に伴い数量減。販社への適正価格の反映により増収増益。 発炎筒類：自動車用は売上高横ばい、コスト増で減益。高速道路用は増収増益。 煙火関連：販売伸び悩みで減収。製造コスト増により減益。 |
| ■ 受託評価分野 | ▲ 7% | 危険性評価試験：一部顧客の調整期間の影響を受け売上高横ばい。減価償却費増により減益。 電池試験：一部顧客の調整期間の影響を受け、減収減益。 |
| ■ 化成品分野 | ▲ 6% | 塩素酸ナトリウム：紙パルプ漂白用途の需要減少により減収減益。 過塩素酸アンモニウム：計画に沿った需要推移で売上高は横ばい。適正価格の反映により増益。 電極：交換需要が好調となり増収増益。 |
| ■ 電子材料分野 | ▲ 5% | EV需要の減速によるキャパシタ用電解液の減販と、液晶材料の在庫調整が継続し減収。 一方、ハイエンドサーバー向け電子部品需要の好調により、高付加価値製品の販売が増え増益。 |
| ■ セラミック材料分野 | + 1% | 適正価格の維持と販売推進に加え、金属加工関連の顧客需要が堅調に推移し、増収増益。 |
| ■ シリコンウェーハ分野 | + 12% | 顧客の在庫過多および生産調整は不透明ながら、一部顧客の需要回復により増収。 一方、高付加価値製品の販売伸び悩みや、工場稼働率の低下などの影響により減益。 |

2024/4-9

2025/4-9

決算概要 <基盤領域セグメント群>

売上高（百万円）



| セグメント | 売上高 増減率 (前年同期比) | セグメント別の状況 |
|-------------------|--------------------|---|
| ボトリングセグメント | ▲6% | 環境配慮を重視する顧客の意向により、ホットパック充填製造ラインの受注量が減少し、減収減益。毎年実施する定期修繕コストに対し、中間期にて黒字化を想定するも届かず。第3四半期以降に利益確保していく想定。 |
| 金属加工セグメント | + 5% | 耐熱炉内用金物：製鉄所やセメント工場、ゴミ処理施設などの定期修繕により需要好調。集じん機用リテナーの交換需要は微減傾向であったが、全体として増収増益。各種金属スプリング：主要取引先である建設機械や自動車需要は落ち込んだが、適正価格維持およびプレス品や生産性向上等の取り組みにより、増収増益。 |
| エンジニアリングサービスセグメント | + 51% | 建築・設備工事：競争環境は厳しいが、内部の建設工事や設備工事が増え、増収増益。塗料販売・塗装業務：塗料販売は堅調な一方、建設機械向け需要の低迷により塗装業務の取り扱い件数が減少し、減収減益。構造設計：耐震補強設計や耐震診断案件の獲得が好調で増収。一方、詳細設計案件の収益伸び悩みにより利益は横ばい。 |

2026年3月期 通期見通し

連結業績予想 (11/12 修正開示)

| | | 2026年3月期 5/15 当初予想 (百万円) | 2026年3月期 11/12 修正予想 | 差 異 | 増 減 率 |
|---------|-----------|--------------------------------|------------------------|--------|--------|
| 売 上 高 | 第 2 四半期 | 18,500 | 17,763 [※] | ▲737 | ▲4.0% |
| | 通 期 | 39,000 | 38,000 | ▲1,000 | ▲2.6% |
| 営 業 利 润 | 第 2 四半期 | 1,100 | 1,504 [※] | +404 | +36.8% |
| | 通 期 | 3,100 | 3,500 | +400 | +12.9% |
| 経 常 利 润 | 第 2 四半期 | 1,200 | 1,657 [※] | +457 | +38.1% |
| | 通 期 | 3,350 | 3,700 | +350 | +10.4% |
| 純 利 润 | 第 2 四半期 | 800 | 1,149 [※] | +349 | +43.7% |
| | 通 期 | 2,700 | 2,850 | +150 | +5.6% |
| 期 末 配 当 | 1 株 当 た り | 36円 | 38円 | +2 | +5.6% |

※実績値

連結業績予想

<セグメント別>

| (百万円) | 通期売上高 | | | 通期営業利益 | | |
|-----------|-----------------------|------------------------|--------|-----------------------|------------------------|------|
| | 2026年3月期 5/15 当初予想 | 2026年3月期 11/12 修正予想 | 増減額 | 2026年3月期 5/15 当初予想 | 2026年3月期 11/12 修正予想 | 増減額 |
| 化学品 | 23,500 | 23,400 | ▲100 | 1,550 | 2,030 | +480 |
| ボトリング | 4,600 | 4,500 | ▲100 | 450 | 370 | ▲80 |
| 金属加工 | 7,300 | 7,400 | +100 | 550 | 560 | +10 |
| エンジニアリングS | 5,000 | 5,600 | +100 | 650 | 710 | +60 |
| 報告事業部門計 | 40,400 | 40,400 | ±0 | 3,200 | 3,670 | +470 |
| 連結合計 | 39,000 | 38,000 | ▲1,000 | 3,100 | 3,500 | +400 |

業績計画 <化学品セグメント>

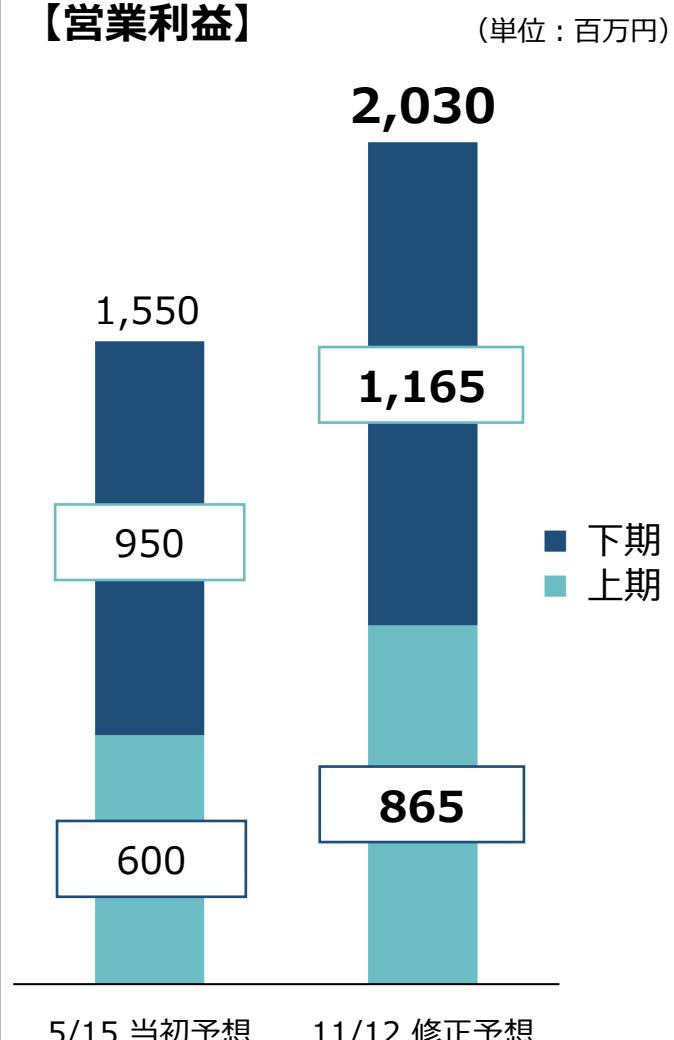
信頼と限りなき挑戦



【売上高】



【営業利益】



(単位: 百万円)

■ 化薬分野 (発炎筒類、爆薬、煙火原料等)

需要は上期同様に堅調予定。**生産コスト増の価格反映の取り組みを継続。**

■ 受託評価分野 (危険性評価試験、電池試験)

電池試験所の新試験棟が**11月から稼働開始**。各種展示会やセミナーを通して、既存顧客のリピートや横展開だけでなく、新規案件の受注も目指す。

■ 化成品分野 (塩素酸ナトリウム、過塩素酸アンモニウム等)

塩素酸ナトリウム（紙パルプ漂白原料）は依然需要の不透明さが継続。
過塩素酸アンモニウム（推進薬原料）は需要計画に沿った増販を予定。

■ 電子材料分野 (導電性高分子、イオン液体等)

上期から引き続き、ハイエンドサーバー向け電子部品需要にターゲットを定め、高付加価値製品の販売を強化。

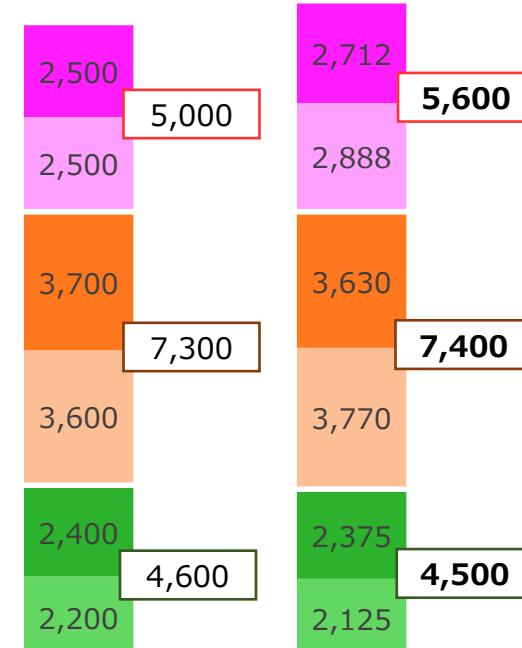
■ セラミック材料分野 (研削砥粒等)

需要環境は上期から変動なく堅調。

■ シリコンウェーハ分野 (小口径シリコンウェーハ等)

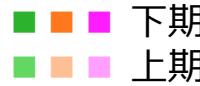
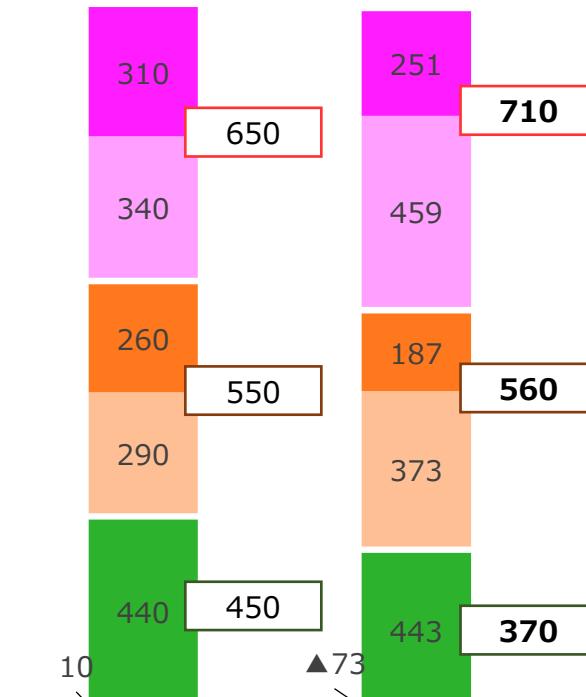
上期は一部顧客の需要回復もあったが、顧客の小口径シリコンウェーハの在庫消化は引き続き緩やか。他分野にてカバーしていく。

【売上高】



【営業利益】

(単位:百万円)

■ ボトリングセグメント

350ml～600ml製品や加温PET製品の受注確保に注力。
安定稼働の維持と、生産効率の向上を目指す。

■ 金属加工セグメント

耐熱炉内用金物分野については、製鉄所やゴミ処理施設などの定期修繕は上期ほど件数を見込めず、需要に応じた供給を進めていく。
金属スプリング・プレス品分野については、需要状況は期初計画通り。改善している利益性の分、増益を見込む。

■ エンジニアリングサービスセグメント

建築・設備分野については、外部案件獲得の競争環境が厳しい状況。
塗料・塗装分野については、概ね期初計画どおりに推移。
構造設計分野については、民間案件を増やし増収益を目指す。

カーリットグループ 各事業の状況と戦略について

中期経営計画Challenge2027のおさらい

1

2027年度目標：営業利益 42億円

2030年度目標：営業利益 50億円

2035年度目標：営業利益 60億円 とする中長期計画を策定

2

事業ポートフォリオの見直しを実行。新たに〔重点領域〕を加え、
〔注力領域〕〔育成領域〕〔基盤領域〕とあわせ 4 つの領域を設定

3

〔重点領域〕として「宇宙・防衛 固体推進薬」を設定。
これまで宇宙ロケット用に限定していた開発を、防衛分野にも着手

4

最適資本構成をふまえた適切な株主還元として、総還元性向の目標を40%に設定。
資本効率の向上を意識した、機動的な株主還元を実行していく

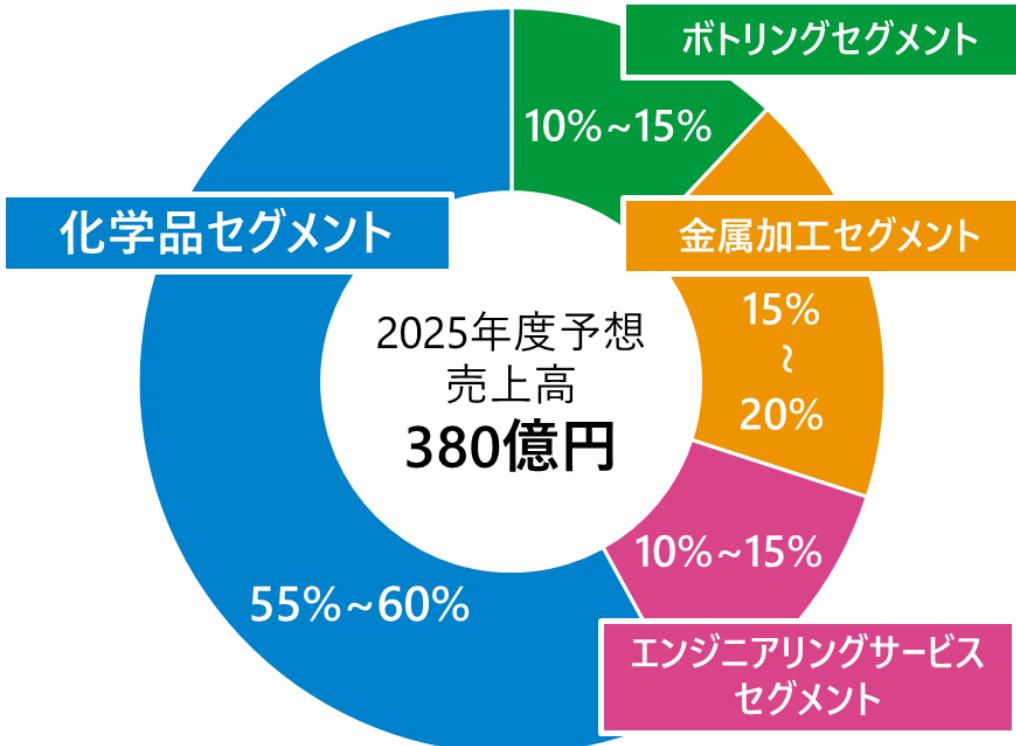
カーリットの事業の全体像がわかりにくい

というご質問が多くあり、今回改めてご紹介

4つのセグメントと事業ポートフォリオ

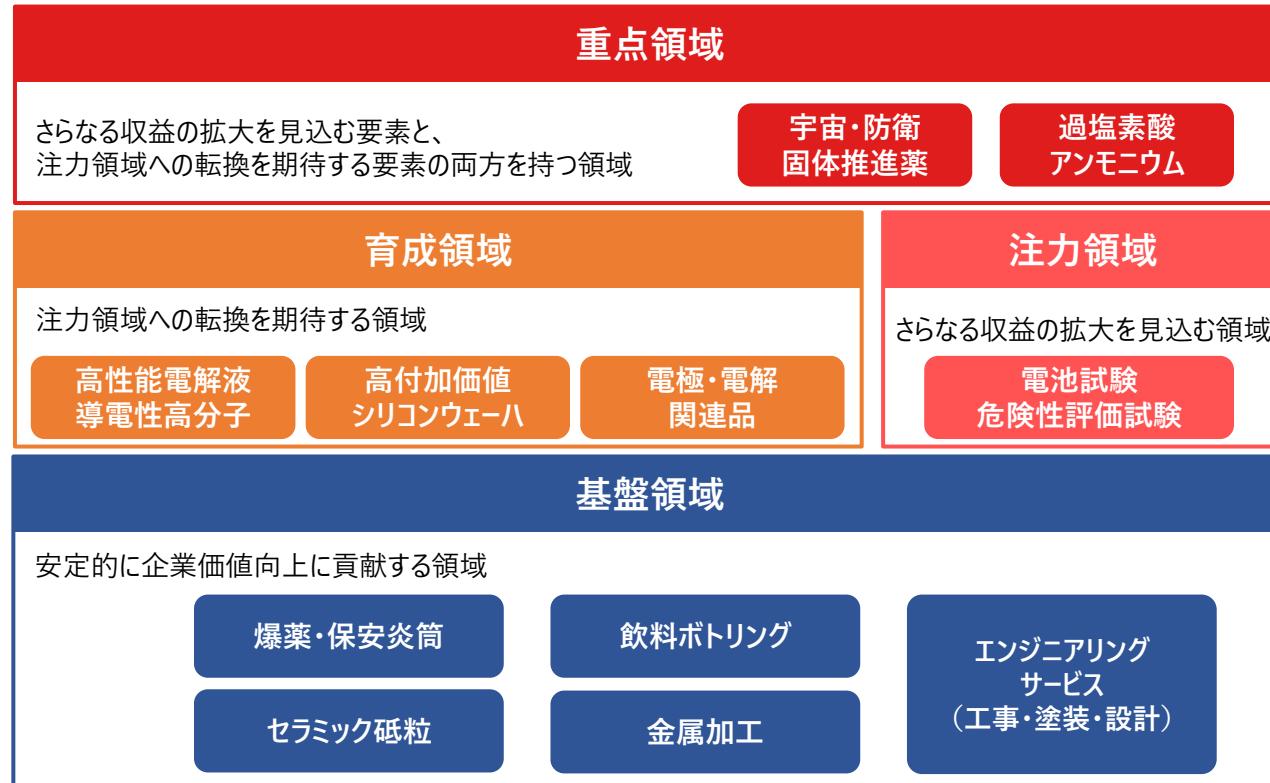
4つの報告セグメント

→ 事業内容・会社によって分けられた区分



事業ポートフォリオ

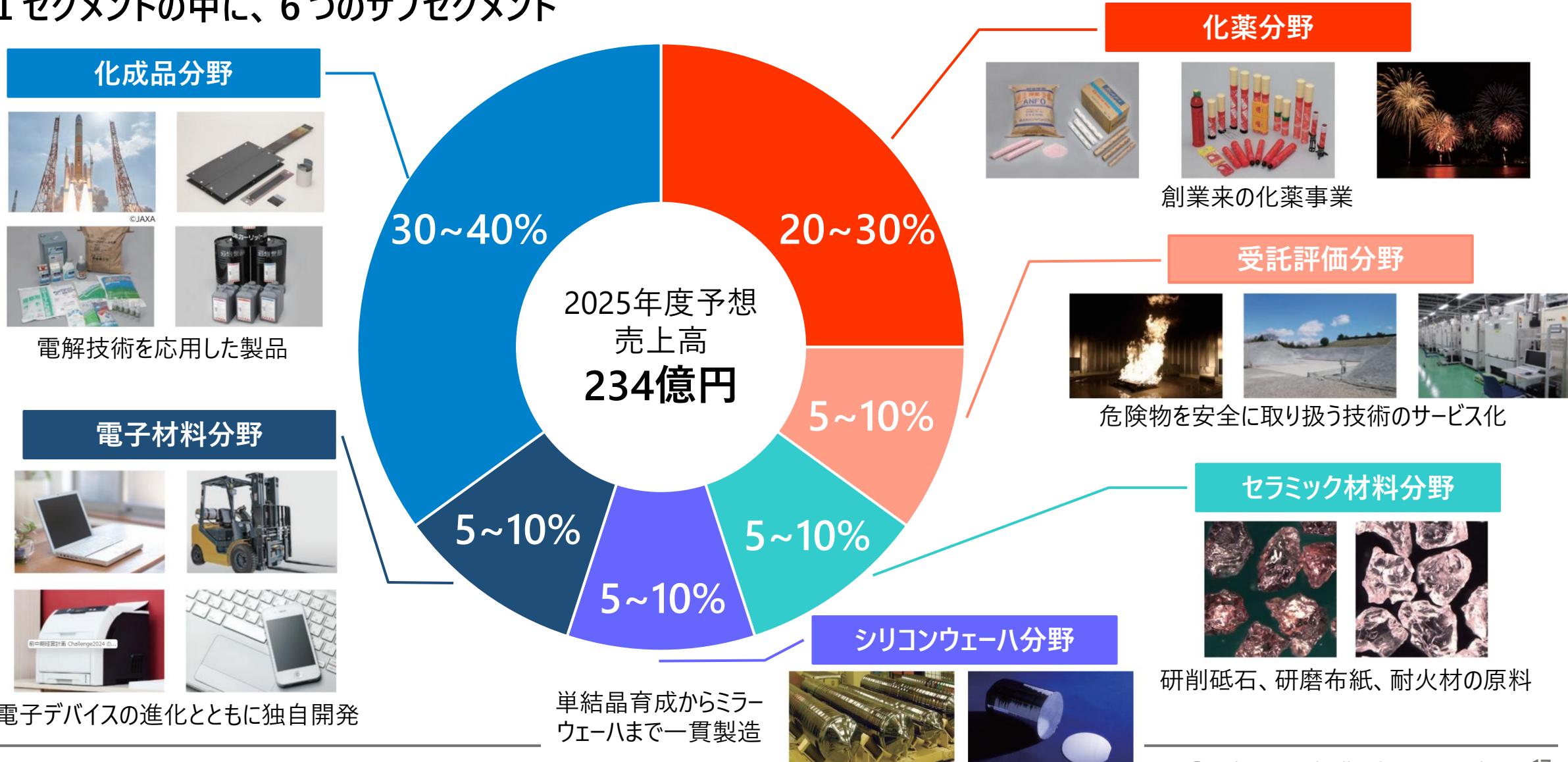
→ 成長性や収益性により、リソース配分を定めるための区分



- × 報告セグメントと事業ポートフォリオの関係性がわかりにくい！
- × 化学品セグメントの分野別の構成比、重要事業がわかりにくい！
- × コングロマリットで、どの業界・外部環境でカーリットを評価したらしいかがわからない！

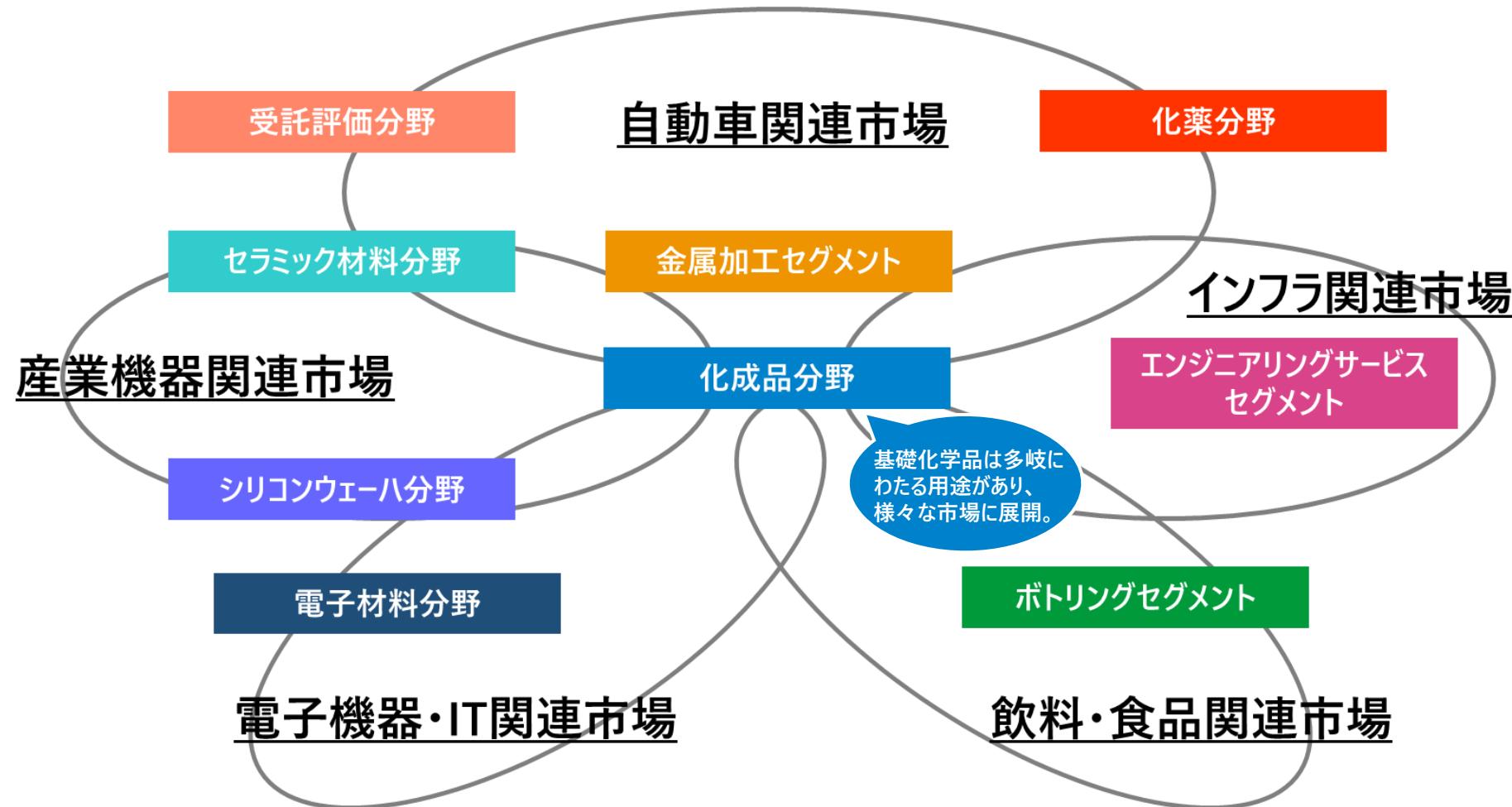
化学品セグメントの事業構成

◆ 1 セグメントの中に、6 つのサブセグメント



セグメント・サブセグメントごとの事業環境

◆ セグメント・サブセグメントに関わる代表的な業界・マーケット



【特徴】

1. 左図 5 つの市場は代表的なもの。 詳細では、より多岐の市場や業界にわたって事業を展開。
2. 収益源の多様化により、 市場変動リスクを分散。
3. 海外動向の影響を受けるが、 販売は国内市場が主流。

【課題】

- × 複数事業の展開により、 経営管理が複雑化
 - × シナジー効果が得られない
- 市場や製品の動向・成長性を ふまえ、事業ポートフォリオを定め、 経営管理を実施。

事業ポートフォリオと報告セグメント一覧

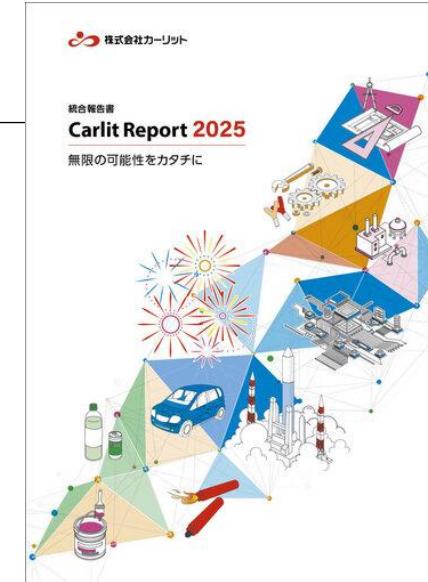
| 事業ポートフォリオ | | 報告セグメント（サブセグメント） | 売上高比率 | 市場・業界 |
|-----------|-------------------|-------------------|--------|---|
| 重点領域 | 宇宙・防衛固体推進薬 | 化薬分野 | 55~60% | 宇宙開発市場、防衛産業市場 |
| | 過塩素酸アンモニウム | | | |
| 注力領域 | 電池試験 受託評価試験 | 化成品分野 | | 電池開発市場、EV・HV開発市場 |
| 育成領域 | 高性能電解液 導電性高分子 | 受託評価分野 | 55~60% | 電子機器全般（コンデンサ、液晶が使われるもの） |
| | 高付加価値 シリコンウェーハ | 電子材料分野 | | 電子機器全般（半導体ディスクリート分野） |
| | 電極・電解関連品 | シリコンウェーハ分野 | | 化学・鉄鋼プラント等のメンテナンス市場（電解系） |
| 基盤領域 | 爆薬・保安炎筒 | 化成品分野 | 10~15% | 自動車関連市場、インフラ関連市場（安全装備市場） |
| | セラミック砥粒 | 化薬分野 | | 金属加工、機械加工、産業機器市場等 |
| | 飲料ボトリング | ボトリングセグメント | 10~15% | ペットボトル飲料（280~600ml）、缶飲料市場 |
| | 金属加工 | 金属加工セグメント | 15~20% | 化学・ごみ処理プラント等のメンテナンス市場（高温炉） 自動車、建設機械、産業機器市場 |
| | エンジニアリングサービス | エンジニアリングサービスセグメント | 10~15% | 建設機械、産業機器関連市場 水処理施設、民間施設等の設計・耐震診断市場 |

最後に

統合報告書「カーリットレポート2025」

- ・ カーリットのコア技術やシェア
- ・ 価値創造プロセス、バリューチェーン
- ・ 事業別戦略（SWOT分析、中期経営計画と戦略）など

→ 当社ホームページにて公開中



宇宙・防衛固体推進薬 事業説明会

1. カーリットと固体推進薬について
2. 過塩素酸アンモニウム増産計画の進捗状況について
3. 宇宙・防衛 固体推進薬の開発状況について

（内容は現時点の予定となります。予告なく変更となる場合もありますので、ご了承ください。）

→ 12月16日 (火) 13時頃 説明会資料を開示予定

信頼と限りなき挑戦



株式会社カーリット

無限の可能性をカタチに